

“まちづくり提案”の検証・評価・見直しについて

1 第2次・第3次まちづくり提案の特徴

第2次・第3次提案は、第1次提案を継承し発展させたものですが、とくに以下のような諸点にその特徴があります。

- ①まちづくりのテーマをできるだけ漏れなく包括的に取り上げたこと。
- ②10年後の地域の目標を示し、現状との開きを課題として捉えたこと。
- ③5W1H（いつ・誰が・何を・どこで・誰に・どうする）に基づき実効性を確保したこと。
- ④自治会議は、10年間の時限設置であるため、また、まちづくりの主役は住民自身であるため、まちづくり協議会との連携・協働を念頭に置いたこと。

2 第1次・第2次提案の検証・評価・見直し

早いもので、第1次提案から4年以上、第2次提案から2年以上が、すでに経過しています。やりっぱなしにすることなく、一つひとつ着実に実現していくためには、進捗状況をチェックし、見直していくことが必要です。今回は、第1次提案との関係を考慮しながら、主に第2次提案を対象に検証・評価・見直しを行います。

計画（Plan）－実施（Do）－検証・評価（Check）－改善・見直し（Action）を繰り返すことにより、提案（計画）を確実に実現していく必要がありますが、このことをPDCAサイクルといいます。とくに重要なC→Aの判断基準は以下のとおりです。

(1) 進捗状況のチェック

- ①A.順調 B.ほぼ順調 C.遅れ気味 (30%以内、31～60%以内、61%～終了)
- ②D.未着手

(2) CおよびDの要因（原因）は何か

要因（原因）を分析し、改善・見直しの方針(3)を立てる。

(3) 改善・見直しの方針

- ①A.継続 B.中止
- ②変更（C.スケジュールの変更 D.内容の変更 E.新規 F.その他）
- ③改善・見直しの方針により当初計画を変更する。

(4) 5W1Hによるアクション

変更計画の5W1H（いつ・誰が・何を・どこで・誰に・どうする）に基づき行動する。